

郷土を知る 昔々の そお市

開

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

第71回



詩人・書家・郷土史家

たか き しゅう きち
高木 秀吉

閑けきにたえきれないで
鳳仙花の実のはじけるのです
秀吉

「閑寂」と題されたこの詩は、詩人・高木秀吉の代表作で、昭和57年（一九八二）に向江公園敷地内に詩碑として建立されました。昭和31年に中学校の教科書にも採用されています。この詩碑は庁舎建設にともない一時撤去されましたが、令和7年11月に曾於市立図書館前に移設されました。

高木秀吉は明治35年（一九〇二）4月19日、末吉町上新地で生まれ旧制都城中学校（現・泉ヶ丘高校）、日本大学文学部を経て、大正12年（一九二三）に「新進詩人」へ参加し、東京の詩壇で将来を嘱望された詩人でした。

しかし同14年、兄の死去にともないやむなく末吉へ帰郷しましたが、詩への情熱は全く衰えることなく、詩集「月と樹木」「窓」「新境」「ノオト」「寂静」「くまざさ」「詩芸術」など、多数発刊されました。

また書家でもあり、詩碑「閑寂」も本人によるものです。個展も開催しており、歴史民俗資料館や総合体育館などにも書が掲げられています。かつ古文書を、原文のまま写本する巧みな技術も持ち合わせていました。

そして郷土史家として、埋蔵文化財の発掘調査や古文書の解読を行い「末吉郷土史」「大隅町誌」「財部町郷土史」などの郷土誌史の編纂にも中心になって携わり、郷土の歴史の解明に大きな功績を残しています。ちなみに史跡に関する詩も数々詠んでいます。

他方、末吉町助役・末吉町選挙管理委員長・末吉町文化協会会長などを歴任し、第十回南日本文化賞受賞、昭和51年には末吉町名誉町民の称号も贈られるなど輝かしい活躍をされました。

昭和55年（一九八〇）9月6日、78歳で死去。息子の秀久氏によると、亡くなる前「生きるのも大変だが、死ぬのも大変だ」と言ったのが最後の言葉だったそうです。激動の時代に詩人としてだけではなく、郷土のために尽くした一生でした。

ぜひ、図書館前に移設された詩碑をご覧ください、この詩の奥深さを味わって欲しいです。また1階図書館には秀吉氏の書籍があり、2階の歴史民俗資料館内では関係資料を展示しています。

曾於市史編さん情報局

まだまだ資料を探しています。各校区や自治会（集落）のことが記された昔の書類や記念誌・写真などは当時のことを知るうえで貴重な資料です。ぜひ、ご提供ください。

※提供いただいた資料はお返しします



詩碑「閑寂」